24 南 一郎平 顕彰活動に携わる皆さん

～令和6年10月3日（木）訪問～　【宇佐市】

南　一郎平

江戸末期に宇佐市金屋の庄屋の一人息子として生まれた南 一郎平氏は、「世界かんがい施設遺産」にも登録され駅館川東岸の農地を潤す「広瀬井手」をはじめ、那須疏水（栃木県）等の日本三大疏水と呼ばれるかんがい施設など、全国各地の疏水開削事業に取り組み、「日本三大疏水の父」と呼ばれています。地元である金屋地区の皆さんは、その功績を多くの方に広く知ってもらい後世にその偉業を伝えようと、情報発信に努めています。

懇談では、難工事のため4度の工事中断を余儀なくされ、約120年という歳月を要した広瀬井手の完成のため、身命を投げうって尽力した南 一郎平氏の活躍と、その活動が明治日本の発展に与えた影響についてお聞きしました。

令和6年11月には、「日本三大疏水と南一郎平交流フォーラム」を開催し、日本三大疏水の関係者も招いて、広くその功績を周知するとのことでした。皆さんからは、日本全国の方々にも知っていただくため、南一郎平氏をモデルとするNHK連続テレビ小説への採用誘致活動を行っており、県にも協力してほしいとのご要望をいただきました。

貧困に苦しむ農民のため、近代日本の発展のために生涯を捧げた南 一郎平氏の功績を改めて認識するとともに、宇佐市とともに情報発信に努めていきたいとお伝えしました。

懇談風景

関連分野における県の施策（令和7年度）

☆事　業　名：【新】地域未来創造総合補助金
　事業概要：人口減少が進む中、魅力ある地域を未来へ継承するため、地域住民等が行う魅力ある地域づくりや特色ある取組を支援
　予　算　額：5億円

☆事　業　名：【特】おおいた地域づくり活動支援事業
　事業概要：特色ある地域活性化の取組の担い手確保・持続的発展を図るため、市町村から推薦のあった地域づくりに活躍しているひとや団体を登録し、活動紹介や参加者募集を行う特設サイトを開設
　予　算　額：950万円

※【新】は令和7年度からの新規事業
　【特】は本県の課題を解決し、新しいおおいたを創りあげる「新しいおおいた共創枠」

【南 一郎平と大久保利通】

南一郎平は、工事資金調達のため、先祖伝来の家や土地はおろか、家具、衣類まで売り払い、小屋での生活を余儀なくされるほどの苦労の結果、不可能とされた広瀬井手の完成を成し遂げました。その情熱と技術を高く評価した当時内務卿であった大久保利通は、一郎平を全国に派遣して開発事業を進めさせました。その後、日本三大疏水とよばれる、福島県の安積疏水、滋賀県の琵琶湖疏水、栃木県の那須疏水の開削や全国各地の道路・鉄道敷設等に携わり、人々の生活向上と日本の発展に大きく貢献しました。